

バングラディッシュ犠牲祭2023 撮影ワークショップ

おすすめポイント

- ①現地集合 & 解散型の撮影ワークショップ
- ②イスラム最大の例祭に合わせたスケジュール
- ③プロ写真家による撮影指導(初心者歓迎)
- ④世界中の写真家が注目する撮影ポイントを適切なタイミングでご案内
- ⑤ホテルは全て4-5ツ星ホテル利用
- ⑥専用車で移動



こんな方におすすめ!

通常のツアーでは殆ど催行されない、僻地での希少な撮影を経験したい!
プロ写真家による現地指導で、自分の撮影スキルを向上させたい!

2023年6月21日発 8泊9日

★このワークショップは、バングラディッシュ写真協会BPAとのコラボとなります。

BPA会長のYousuf氏は世界的に有名な写真家です。

彼の企画するワークショップには、世界中から多くの写真家が参加する事で知られています。

バングラディッシュを深く知るプロ写真家のBPAスタッフ達が、タイミングに応じて最適な撮影場所を提供します。バングラディッシュの撮影では絶対の自信をもっており、他では真似できない強みがあります。

料金 USD 2,400(2人/部屋) USD2,800(シングル利用)

料金に含まれているもの

- ①4-5ツ星ホテルの宿泊 8泊分
- ②全食事付(夕食は中華、タイ、ベンガル料理、海鮮BBQ等)
- ③空港送迎、国内線航空券を含む全ての移動
- ④撮影指導及び現地でのイメージに合わせた演出等

犠牲祭とは?

犠牲祭はイード・アル=アドハーと呼ばれており、預言者アブラハムがアッラーの神へ息子を犠牲に差し出した物語が起源とされており、ラマダーン明けと共にイスラム教の最大の祭典のひとつです。

犠牲祭はイスラム暦に従って催されるため例年日程が異なりますが、2023年は6月28-30日の3日間にわたってイスラム教の国々で催されます。バングラディッシュの首都で催される犠牲祭は、路上で次々と家畜が屠殺され解体されていく様子を見る事ができます。

壮絶な光景ですが、無益な虐殺とは異なります。屠殺された家畜は無駄な部位を残す事無く完全に活用され、それらの肉はイスラムの教えに従って路上生活者へも捧げられます。

この日は、国立モスクの朝の礼拝撮影から始まります。

礼拝後、市内の路上では犠牲祭に捧げる家畜の解体が始まります。目を背けてしまう光景ですが、命を頂く大切さを改めて認識する機会でもあります。

午後は、解体された家畜の皮を加工する工場にご案内します。



名物混雑列車と祈りの風景

イスラム最大の例祭のため、この期間は故郷でイードを祝う人達で国内の交通機関は多くの人達で凄まじい混雑となります。列車の屋根には人が溢れ、フェリーにも数万人の乗客で溢れかえります。路上で祈る群衆の姿と共に、人口密度世界一を誇るバングラディッシュならではの典型的な光景です。



国立モスクでの礼拝と混雑列車



児童就労 船の墓場とダッカ市内の縫製工場



ダッカ郊外の煉瓦工場

犠牲祭前にはいつものダッカの様子をご案内致します。
はじめに小舟で対岸に渡り、ビルの屋上からブリガンガ川の俯瞰を撮影します。ダッカを象徴する木造のリバータクシーが並んで停泊する光景を撮影後は、ビル内部の縫製工場に入ります。
子供達が就労する様子を撮影した後、船の墓場と呼ばれる解体場所へと移動します。
解体所では、作業する人々や解体場所に形成されたスラム街で撮影します。
又、ダッカ郊外の煉瓦工場では広大な敷地で働く労働者達の様子を撮影します。
これらの場所は観光地ではなく、現地の人々が実際に生活する場です。
通常では入る事のできないディープな場所まで入り、そこで暮らす人達のリアルな姿を撮影します。

コックスバザール

今回の撮影ワークショップでは、バングラディッシュ南東部のコックスバザールへの旅も含まれます。コックスバザールは世界最長125kmの長さのビーチに三日月形のボートが並ぶ幻想的な光景を見る事ができます。炎天下に吊るされる百万の干物の漁村等、ガイドブックには無い貴重な場所へもご案内します。



左上/ミャンマー国境付近のビーチ 右上/ドライフィッシュヤード 左下/朝の魚市場 右下/フルーツマーケット

バングラディッシュの行き方

バングラディッシュの首都ダッカへはバンコクから1日5便が就航しています。約2時間のフライト時間と短く、タイ国内旅行の感覚で行く事ができます。日本からの直行便は無く、バンコクやシンガポール、KL、香港等で乗継の必要があります。

バングラディッシュの季節と気温

6月下旬のバングラディッシュは、猛暑が少し落ち着き雨期が始まる頃です。雨期とはいえ、未だ本格的な降雨になる事は殆ど無く、通常は午後にはわか雨がふる程度と思います。

ホテル事情等

ダッカ、チッタゴン含めて4-5星クラスのホテルをご用意致します。

食事情

夕食はタイ料理や中華等のインターナショナルレストラン、BBQやインド料理等レストランで召し上がり下さい。昼食は現地のローカルレストランやファーストフードが主体となります。所感ですが、インド旅よりはバラエティーが多く、食事に飽きる事は殆どありませんでした。基本的にはインドより衛生意識は高いと思います。

日程表

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

日時	移動イベント等	宿泊
6月21日 水	フライト到着に合わせて空港出迎え 専用車でホテル送迎	ダッカ市内
6月22日 木	朝食後、ダッカ市内及びダッカ近郊の煉瓦工場で撮影	ダッカ市内
6月23日 金	朝食後、専用車でバングラデシュ第二の都市チッタゴンへ移動。その後アルミニウム工場で撮影	チッタゴン
6月24日 土	早朝チッタゴン市内にあるバングラ最大の魚市場で撮影。その後専用車でコックスバザールへ移動。午後から日没までDry Fishyardの漁村と周辺で撮	コックスバザール
6月25日 日	午前中、コックスバザール近郊の果物市場で撮影 午後はミャンマー国境付近の漁村に移動し、ムーンボートと網漁の撮影	コックスバザール
6月26日 月	早朝市内の魚市場で撮影、午後国内線でコックスバザールからダッカへ ダッカ到着後、犠牲祭用特設牛市場で撮影	ダッカ市内
6月27日 火	終日 ダッカ郊外で混雑列車、道路を埋めつくす人々が祈禱する風景等を撮影	ダッカ市内
6月28日 水	午前、ダッカ郊外で混雑列車の撮影。夕方はフェリーターミナル周辺を訪れ 混雑船の撮影	ダッカ市内
6月29日 木	午前、国立モスクでの祈禱風景、その後市内での畜殺風景と革工場で撮影 夕方空港まで送迎	

※上の予定表は現地の都合により一部変更の可能性があります。

ツアーは29日の夕方までに終了します。その後、当日深夜のフライトに合わせて空港への送迎を致します。

バングラデシュVISAの取得

到着VISA

日本人は到着時に15日間のBOAビザ(Visa on arrival)が無料で取得できます。

ビザ取得に必要な書類(招聘状)は出発前に配布致しますので、到着までにプリントアウトして持参して下さい。

尚、到着ビザ申請時には、観光ビザとなるので入国目的は【観光sightseeing】と記載して下さい。

その他の必要事項

新型コロナウイルスcovit19の感染状況により、各国の入国規制は流動的です。

2/1現在、バングラデシュ入国にはコロナ以前と変わらず、特に規制はありませんが、今後の感染状況によっては接種証明書、陰性証明書等の必要が生じる場合があります。

入国規制に関しては、随時最新の情報を確認して下さい。

ワークショップの責任範囲

今回僕が主催する撮影ツアーはワークショップという形態をとっています。

これは、現地発着型の撮影指導を前提としており、海外では多くの写真家が同様のツアーを催行しています。そのため、現地までの移動方法、ビザ手配は全て参加者各個人の責任に於いて対応して頂きます。

航空機のキャンセル等により、当日までに現地に入れない場合は、他の参加者のツアー催行を優先するため状況によってはワークショップへの参加をお断りする事もあります。

その為、フライトに於いては無理のないスケジュールでお手配願います。

催行中は参加者の安全を第一に対応致しますが、不慮の事故や病気に備えて必ず各自の責任に於いて旅行傷害保険にご加入下さい。

参加者の方に病気や怪我、政変や天候等による大きな問題が発生した場合、状況に応じて対応を致しますが、その際ツアーの一部もしくは全てを途中で中断する事もあります。途中で未催行もしくは大幅な変更が生じた場合は、都度誠意をもって対応致しますが、場合によっては返金に応じられない場合もありますので、予めご了承願います。不明点等は、別途お問合せ下さい。

line ID [kurohei0725](#) Mail mochidakurohei@gmail.com

その他 QandA

1.写真愛好家ではありませんが参加できますか？

→勿論OKです。写真愛好家でなくとも貴重な機会なので十分に楽しむ事ができると思います。

2.今回のワークショップにお勧めの機材はありますか？

→基本的にはフルサイズ換算で24-120mmの焦点距離があれば殆どの撮影に有効です。

但し、国立モスクでは全体を俯瞰する場面では15-24mmの超広角

煉瓦工場やコックスバザールのビーチ、混雑列車の撮影では70-200mmの画角があると表現に幅があるので、本格的に撮影するには15-24mm 24-70mm 70-200mmの大三元があると良いでしょう。

3.現地でメモリーカードを購入できますか？

→基本的にはできません。ダッカ市内では購入ができますが、店舗は限られており特にSQDカードは入手が難しいので十分な容量のカードを持参して下さい。

4.事前に準備もしくは練習しておく事はありますか？

→カメラとレンズ以外には、予備電池、充電器、プラグ、ブロアー、スプレー等のクリーナーキットがあると便利です。センサー幕の無いカメラの場合、レンズ交換時に埃が付着するのでブロワーは必須です。又、初心者の中にはカメラの基本設定ができない方を時々みかけます。連写機能やフォーカス範囲、AF-CとAF-Sの切換、露出補正等基本的な設定ができるように事前に練習しておく事をお勧めします。オート又はプログラムでも撮影は可能ですが、重要な設定をコンピューターに任せると、自分のイメージした写真を撮る事はできません。予め、メーカーのWebからカメラの取説をスマホにダウンロードしておく事も有効です。

5.その他機材関連で注意する点は？

→バッテリーや機材は必ずハンドキャリーにして下さい。預け荷物の中にパワーバンクやバッテリー、ライターがあると目的地まで荷物は輸送されず、一時的にロストバゲージとなります。一度ロストすると、ツアー中に荷物を確保する事は難しく撮影そのものができなくなります。その為、機材に関してはできるだけチェックインバゲージとし、予想外のロストバゲージに備えて下さい。

6.海外旅行初心者で英語も殆ど話せませんが、大丈夫でしょうか？

→現地発着型のワークショップなので、正直に言えばハードルは少し高いと思います。然しながら、早めに空港に到着し、案内板を何度も確認する等、余裕をもったスケジュールで行動すれば特に問題は無い筈です。英語に関していえば、流暢に話す必要は無く最低限の英単語のみでOKです。現地では僕が随行しますので、ツアー中に於ける言葉の問題は殆ど無用です。

7.現地でのネット及びSIM事情は？

4GのSIMカードが空港で販売されていますので購入可能です。その場でActivateできますが、日本国内の一部のスマホは予めSIM FREEに設定する必要があります。詳細は、契約しているキャリアにお尋ね下さい。宿泊先のホテルの殆どにはWiFiがありますが、通信速度にはムラがあります。

8.現地での両替

→現地の通貨は空港内で両替可能です。市内の方が若干レートは良いです。円からタカよりもドル(100ドル札)の方がレートは良いと思います。両替の際は、必ず目の前で枚数を確認し、穴の開いた札や、ペンの跡やスタンプがあると使えません。

9.現地での衛生環境が心配です。

→ホテル、レストランは衛生的に問題の無いレベルの所をお手配致します。基本的に、インドよりも衛生状態は優れており、過剰な心配は無用です。

10.その他、持参した方が良いもの等

プラグ
バングラデシュで使われている電源プラグはD・BF・Cの3タイプです。日本ではAタイプしか使われていませんので変換器は必須です。(一部高級ホテルでは日本のAタイプもOK)

ベープマット

夜就寝時に蚊がいると睡眠不足になります。スプレータイプのものや、ベープのような加熱式等があると便利です。

スカーフ(女性の場合)

バングラデシュでは、イスラムの習慣に伴い女性はヒジャブという布で髪を隠す習慣があります。現地の宗教的な慣習をリスペクトする為、外出時にはヒジャブの着用をお勧めします。

11.現地ではビール等飲酒は可能ですか？

→可能ですが困難です。市内にはリカーショップが幾つかありますが、看板も無く見つける事は困難です。冷えたビールはありません。一部の高級ホテルではバーがありますが、非常に高額です。犠牲祭の間はこれらの場所も閉店しており、実際に手に入れる事は困難なので、予め必要な分だけ持ち込むのを勧めます。